

IEICEが描くICT社会の未来像



2013年4月22日(v1)

2014年3月14日(v2)

電子情報通信学会(IEICE)

ロードマップ委員会

本資料中の一部イラスト素材は、“いらすとや” (<http://www.irasutoya.com/>) 様のご好意により、無償で利用させていただいております

Copyright ©2013 by IEICE

1

あらゆるモノをつなぐコミュニケーション基盤

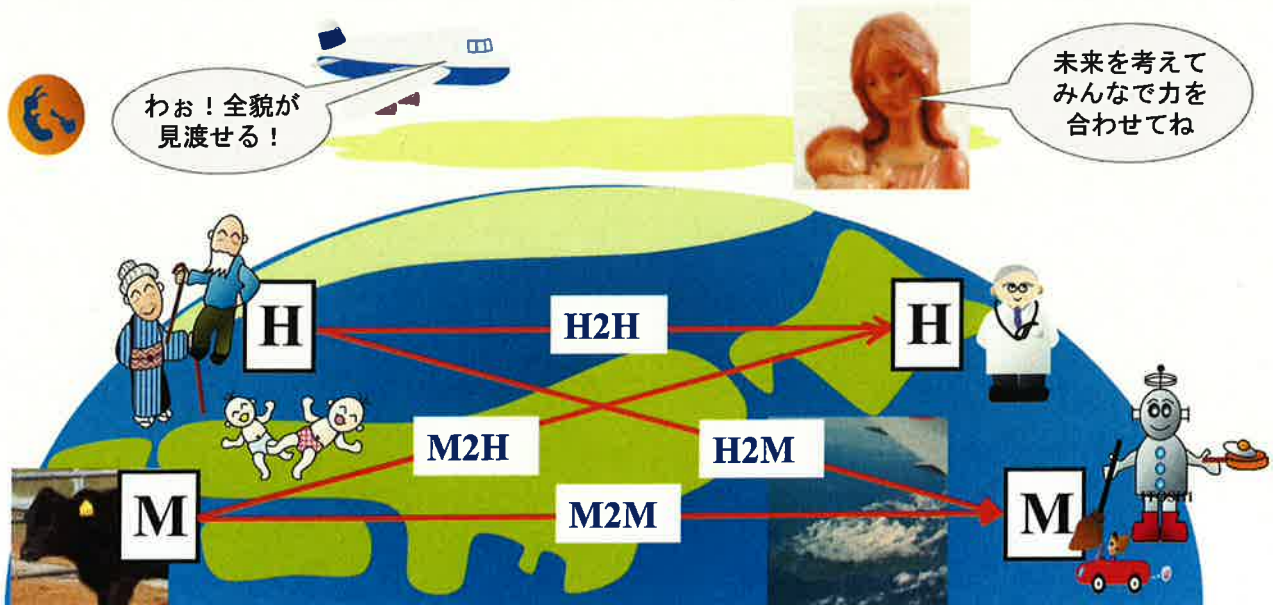
利用者用のインタフェースを持つヒューマン型端末 (H) だけでなく、利用者とのインタフェースを持たないマシン型端末 (M) を自由自在に結合し、離れた多地点の人、モノ、情報、機能を結合・共有できる場 (コミュニケーション基盤) を構築する

H2H通信の例：通話、多地点間会議、メール

H2M通信の例：Hを介し遠隔地から機械(M)を操作

M2H通信の例：M発信によるHを介した警報や誘導

M2M通信の例：ゲートの自動開閉、機械の自律動作



ボーダレスなコミュニケーション基盤



メディアフリーコミュニケーション



Copyright ©2013 by IEICE

3

持続可能社会への貢献 (創エネ・省エネ)



Copyright ©2013 by IEICE

4

持続可能社会への貢献（防災・減災）

落雷注意

竜巻は心配不要

15:34ゲリラ豪雨が発生しそう

地震です！24分後に3センチの津波がきます

ウェアラブルデバイス

2日以内にがけ崩れの危険あり！

ゲリラ豪雨が来るので今日の作業はここまで

避難誘導船
安全な所までご案内します

避難誘導靴
危険な場所へ行かせない

飛行機保守

オゾンホール回復気味です

建物保守

トンネル保守

乗り物保守

生物多様性保護

道路・橋保守

ウイルス検知

水質管理・水路保守

Copyright ©2013 by IEICE

少子高齢化社会への貢献（生活支援・ヘルスケア）

介護ロボット

お寿司握ってみました

かゆいところありませんか？

癒しロボット
“ITOSHI”

働きものの賢いロボット。離れた場所からでも音声を聞き分け、人と意思疎通ができる

あゝの症状と似ている

オフィスロボット
“TEASSHI”

痴呆症のある方に代わり事務処理

遠隔診断ロボ
“ナイシンガール”

ロボットを遠隔操作(H2M)。ロボットが見たり触ったりしたものを離れた場所から感じることができる(M2H)

実証知アーカイブ

世界中の医療情報を共有

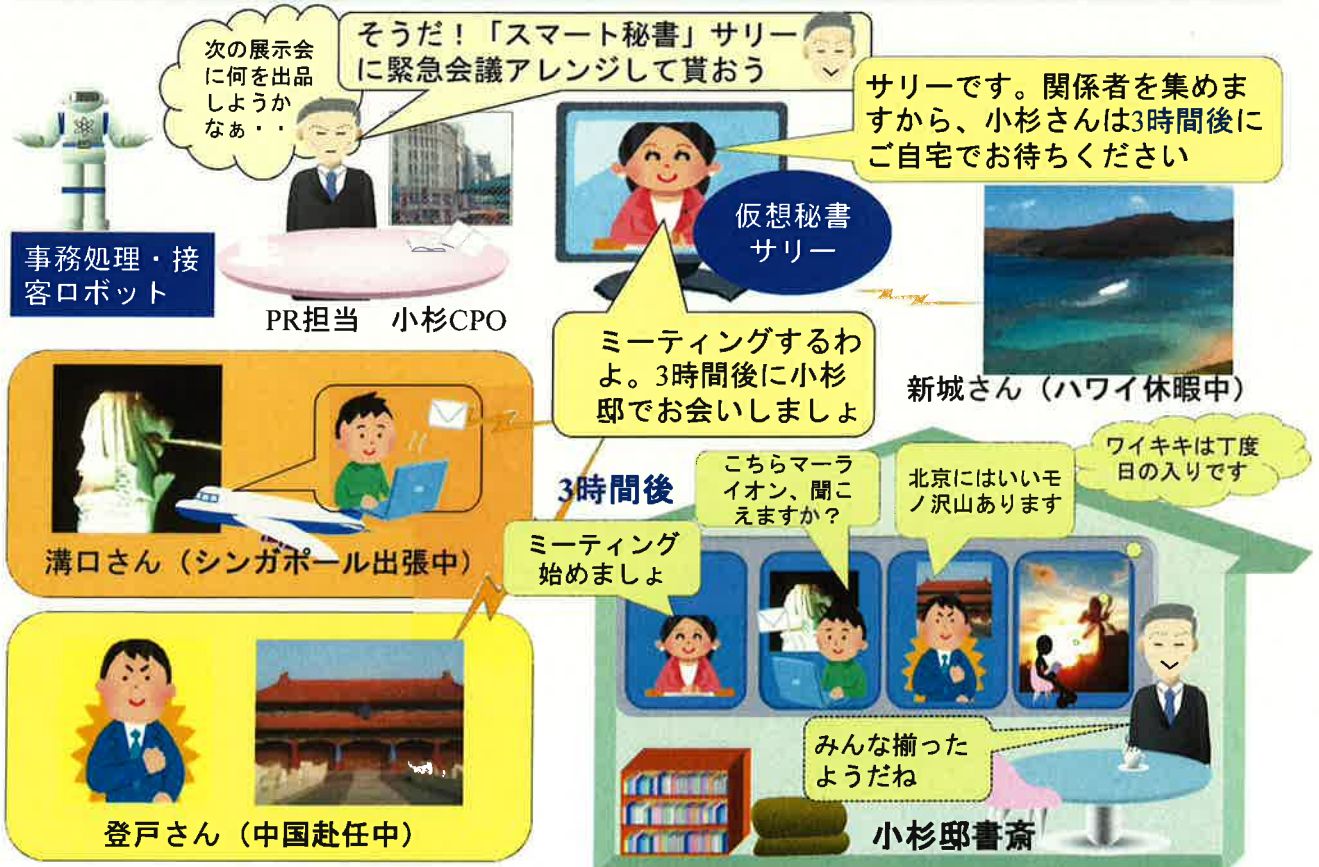
Copyright ©2013 by IEICE

少子高齢化社会への貢献（移動支援）



Copyright ©2013 by IEICE

知識社会への貢献（現場のICT化：ユビキタスオフィス）



Copyright ©2013 by IEICE

知識社会への貢献（経験知や専門家の眼の活用）

